

講演 「明日からの保育に活かす10の姿の読み取り」

講師 奈良教育大学 教授 横山 真貴子先生

1. 幼児教育において育みたい「資質・能力」の3つの柱

- ① 知識及び技能の基礎・・・気付くこと・できること
- ② 思考力、判断力、表現力などの基礎・・・試し工夫すること
- ③ 学びに向かう力、人間性等・・・やりたいことに向けて粘り強く取り組むこと

幼児期において「学びに向かう力、人間性等」を育てるのが一番大切。小学校の学習の基礎となる力である

「やりたい！」と子どもが思えるように持っていくのが保育士の資質。初めはやりたくないことも「やってみよう！」と思える気持ちを育てていきましょう。

育っていく中で自然に表れてくる姿が幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)である。

2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)とは？

- 文章の中に「資質・能力」の表れとしてそれを示すキーワードが埋め込まれている。キーワードを読み解くことが大切である。

例：①健康な心と体

幼稚園生活の中で充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

子ども達の気持ちが向かっていくことが大切なので心の動きが丁寧に書かれています。



キーワードの読み解き方

- ・子どもは充実感を持っている？
- ・自分のやりたいことをできている？
- ・いろいろな場面で見通しを持てている？
- ・主体的に動いている？

- 5歳児で急に育つものではない。0歳児から育てていき年長あたりでかなり伸びる。
- 5領域の活動を資質・能力の3つの視点で見直すのが10の姿。

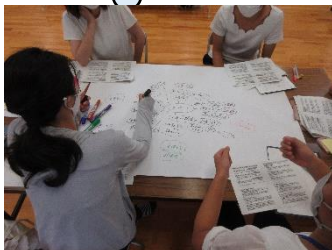
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の捉え方

- ① 10の姿は「その姿に向かって進みつつある」姿
→子どもたちは育っている途中なので10の姿が100%できる子どもはいない。
- ② 長い育ち（0歳～）で捉える。
- ③ 姿とは遊びや生活での様々な様子。
→数か月で捉える。テストはしない！！1つの活動にいくつかの姿がつながる。
- ④ 「ここが育ちたりない」ではなく、「こう育ってきた。もっとここを育てたい！」
→引き算ではなく足し算で考える。伸びていっている様子を認めよう！

3. 活動を読み解く

DVD（泥だんご作り）を視聴し、その中から10の姿のどのような力が育まれているかをグループで話し合い模造紙に記録する。その後、話し合った内容や気づきを発表する。

内容は同じでも人それぞれ捉え方が違う。
違っていい！



10の姿の分類悩んだ。それは1つの活動で同時にいろんな力が育まれるからなのでは？

重なり合う部分が多いなあ。



4. 横山先生より

保育にも話し合いにも正解はない。やり方を自分たちで考えていくことが大切。分類に悩んだところ、重なり合ったところが大事である。いろいろな力が育まれている。

保育は瞬間でいろいろなことを決めていかなければならないから流れてしまいます。機会を見つけて自分の保育を振り返り、子どもの姿を語り合う機会を持ってください。
→自分のレポトリーを増やすことに繋がっていきます。